

のお知らせ

●問い合わせ●

鴻巣保健センター ☎543-1561、FAX 543-5749

吹上保健センター ☎548-6252、FAX 549-2696

※鴻巣保健センターに車でお越しの方は、市役所
駐車場をご利用ください

胃がん・肺がん 結核検診のご案内

2人に1人はがんにかかると言われていています。早期発見・
早期治療のため定期的に検診を受けましょう。



会場	検診日		申込開始
	男性	女性	
川里生涯学習センター	9月1日(金)	8月31日(木)	8月9日(水)9時～
吹上保健センター	9月4日(月)・19日(火)・ 21日(木)・25日(月)	9月3日(日)・5日(火)・ 20日(水)・22日(金)	
田間宮 生涯学習センター	9月15日(金)	9月14日(木)	
鴻巣保健センター	10月11日(水)・14日(土)・ 16日(月)	10月10日(火)・12日(木)・ 15日(日)	8月15日(火)9時～
あたご公民館	10月26日(木)	10月25日(水)	

申込み／申込開始日以降に電話で鴻巣又は吹上保健センター

※勤務先で受診される方や妊娠中の方は受診できません

※各公民館で申し込みや問い合わせは受け付けておりません。鴻巣又は吹上保健センターにご連絡ください（来所はお控えください）

※駐車場に限りがあるため、公共交通機関をご利用ください

肺がん・結核検診

対象／市内在住の40歳以上の方（昭和59年4月1日以前生まれ）

定員／各日100人程度

費用／無料（喀痰検査は追加で300円）※生活保護世帯は受給証を持参で無料

検診内容／問診・レントゲン撮影（問診結果により喀痰検査を行います）

胃がん検診

対象／市内在住の40歳以上の方（昭和59年4月1日以前生まれ）

※次に該当する方は受診できません

○食道・胃・小腸・大腸等の開腹手術を受けたことのある又は治療中や経過観察中 ○過去の検診で発疹等のアレルギー症状が出た ○腎不全で現在透析中や心疾患のために水分制限を受けている ○慢性呼吸器疾患等で常時在宅酸素吸入をしている ○妊娠中又はその可能性がある ○重度の便秘症 ○高熱や全身衰弱が強い

定員／各日45人又は90人程度

費用／500円 ※生活保護世帯は受給証を持参で無料

検診内容／問診・バリウム造影検査（検査終了後に下剤をお渡しします。水飲み場を設置しないため水分をご持参ください）

注意／【前日】○飲酒はお控えください ○20時（就寝3時間前）までに食事を済ませてください（20時以降にのどの渇きが強い場合は、コップ1杯（150～200cc）程度の水分補給（水又はお湯）は、差し支えありません）【当日】○のどの渇きが強い場合、検査の3時間前までであれば、150cc程度の水分補給（水又はお湯）は可能です ○飲食（ガムや飴等を含む）や喫煙は控えてください（胃液が出てしまい、正しい撮影や正確な診断ができません） ○降圧剤などの薬を服用される方は、事前に主治医と相談し、当日の朝に内服した場合は、受付でその旨を伝えてください ○検査後にバリウムの排泄を促すため下剤を飲んでいただきますが、その後も長く腹痛などが続く場合は、医療機関受診をお勧めします





保健センターからの

予防するために大切なことは 予防接種を受けることです 麻しん風しん混合 (MR) ワクチン接種のご案内

現在、海外で麻しんが流行しており、国内でも海外からの感染伝播事例が報告され、今後更なる輸入症例や国内における感染の増加が懸念されます。麻しんは、とても感染力が強く、マスクや手洗いでは防ぐことができません。ワクチンの接種が感染を防ぐただ1つの方法です。

	接種期間	接種期間
第1期	生後1歳～2歳未満のお子さん	2歳の誕生日の前日まで
第2期	翌年度に小学校就学を迎えるお子さん（平成29年4月2日～平成30年4月1日生まれ）	令和6年3月31日まで

費用／無料 ※対象年齢以外及び接種期間を過ぎた場合は有料

医療機関／市内委託医療機関（市外の医療機関での接種を希望する場合はお問い合わせください）

予診票／郵送した「予防接種の予診票」冊子内のものを使用してください。予診票が見当たらない場合はお問い合わせください

健康づくりセミナーのご案内

全3日間のコースで、健康に関する正しい知識を一緒に学びませんか。



	日程	内容	講師
1	9月12日(火) 9時30分～12時	「健康長寿サポーター養成講座」「楽しく食べて心もからだも健康に」「オーラルフレイルと口腔ケア」	市管理栄養士 歯科衛生士
2	10月13日(金) 13時30分～15時30分	「フレイル予防のための食品開発について」	十文字学園女子大学 教授
3	11月14日(火) 9時30分～15時	「美味しく楽しくしっかり食べよう（講話と調理実習）」「今日からはじめる運動習慣（理論と実技）」	管理栄養士 健康運動指導士

会場／鴻巣保健センター **対象**／市内在住の方 **定員**／20人（先着順）

費用／500円（食材料費・3日目に集金）

申込み・問い合わせ／8月8日(火)9時～9月8日(金)17時までに電話で鴻巣保健センター



過活動膀胱について

過活動膀胱は、膀胱が硬く広がりにくくなり、特に、尿意を感じると我慢できない状態をいい、頻尿・尿意切迫感・尿失禁が主に症状として現れます。典型的な症状として、水の流れる音を聞くと急に尿意を催す方が比較的多く見受けられます。

過活動膀胱は、年齢とともに発生患者数は増加し、早いと30歳台から発症し、男女差はなく約60歳以上の3割程度が罹患していると報告されており、急に運動しなくなったり、2か月以上の入院後に突然症状が出るケースが多々あります。

正常な排尿は、300～400ml前後の尿されると尿意を感じ排尿します。例えば、1時間に60～80mlずつ尿が溜まっても4時間前後は我慢出来ませんが、過活動膀胱になると100ml前後の尿されると、強い尿意を感じてしまうため、1時間前後で排尿することになり、尿の回数が増えます。また、気をつけるべき症状は、残尿が多く頻尿になるケースです。このような病気を神経因性膀胱と言います。

最後に加療治療についてです。まず、生活指導としては、体重減量や運動指導、飲水指導、アルコール、便秘改善などです。また、膀胱訓練（尿を我慢する練習）や定時排尿なども指導します。薬物治療では、β3アドレナリン受容体作動薬を使用し、それでも不十分な場合は、抗コリン剤を追加投与します。男性では、前立腺肥大症もあるので、その加療も平行しながらのケースも多くあります。

（鴻巣市医師会）

